

「トビーキッズのたんけん隊 第2回夏のたんけん」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
36	101	36	36

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

若狭湾や近隣地域の自然の中で思い切り遊ぶことを通して、自然と親しむ心と体を育む。
自然の中で様々なチャレンジを通して、意欲を高め、自信を付ける。
四季を通して体験を通して、地域の自然の豊かさ、面白さに気づく。

◆期日・期間

平成30年7月14日（土）～7月16日（月・祝） 2泊3日

◆連携機関

福井、岐阜、愛知、滋賀、京都 各府県教育委員会

◆参加者分析

第1回目の春たんけんは2名が体調不良のため欠席となったが、夏たんけんでは参加者36名全員揃うことができた。春たんけんほどの緊張感もなく、受付を済ませ、他の参加者や大学生ボランティアと顔を合わせるとすぐに打ち解ける様子も見られた。第1回を欠席した2名の参加者もすぐに打ち解けていたので、安心した。

第1回実施後、課題について家庭でのごはんづくりに挑戦した参加者も多く、保護者からも「自分から進んで朝食の用意を手伝ってくれるようになった」「家でもカレー作りをしたいと、一緒に作りました」など、春たんけん以後の子どもたちの様子を教えていただいた。その他、「春たんけんが楽しかった、夏も行きたい」「初めて会ったこと友達になれたことが嬉しく、少し自信が付いたように感じました」といった前向きなご意見をいただき、本事業への高い期待がうかがえた。

◆日 程

		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7月14日（土）					受付	はじまりのつどい		昼食（レストラン）		夏のたんけん①	「海となよしスノーケリング」			夕食（レストラン）	テント泊の準備	入浴	本館で宿泊	寝
7月15日（日）	起床	朝朝のつどい（レストラン）	夏のたんけん②スノーケリング	「海をたんけん！」			昼食（レストラン）		夏のたんけん③スノーケリング	「味わうキャンプ！」	キャンプの準備	テント設営	野外炊事	力レーキャンプ	浜でくつろぐ夜	キャンプファイヤー	就寝	
																タボコ浜・テント泊		

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
7月16日(月)	起床	朝朝の食づどくいり	夏「片づけんけんと浜遊び」 ④	自然の家に帰ろう	昼食(レストラン)	夏秋のまといめかく	おわりのつどい	解散		

◆企画のポイント (日程・特色など)

夏たんけんは前半が海での活動、後半は所の近くにある無人浜でのキャンプをメインにプログラムを組んだ。また、野外炊事やテント泊など春のたんけんでの経験を活かすことができるようとした。

◆運営のポイント

年間通して班での活動が主となるため、班編成については変更せず、春たんけんと同じメンバーで組んでいる。子どもの様子をよく知っている大学生ボランティアについてもらえるよう、ボランティアについても同じ班を担当できるようにした。

◆安全管理について

- ・海での活動については、安全のための監視体制として各班（6人班）に3名のボランティアスタッフ、また、全体監視や活動補助として自然の家職員を5名配置した。
- ・水中活動の安全装備として子どもたちにはウエットスーツとフローティングジャケットの両方を着用させた。
- ・活動前には「一人で行動しない」、「安全の装備を身に付ける」などの注意事項を話し、安全への意識を高めるようにした。
- ・気温が35度近くある大変暑い時期での実施となったため、お茶、スポーツドリンクなどを十分に用意し、いつでも水分補給ができるように配慮した。また、活動途中にも水分補給の時間を設けた。
- ・無人浜への出発時間を1時間ずらした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

＜参加者＞

項目	4	3	2	1	未記入
事業全体をとおしてどうでしたか	82%	12%	3%	3%	0%
この事業の運営はどうでしたか	87%	6%	3%	0%	3%
スノーケリングはどうでしたか。	91%	9%	0%	0%	0%
無人浜でのキャンプはどうでしたか。	91%	3%	3%	3%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- ひもをとってとんでのジャンプをしたのは楽しかった。
- 春トビーより夏トビーのカレーの方がとてもおいしかった。
- 春よりたくさんいることができ、いろんなことができた。
- スノーケルが一番楽しかった。
- なんかできなかつたらこんなたのしいことができなかつたけど、なんかできてよかったです。
- テントの中でおもしろいはなしをしていたからたのしかった。
- もうちょっといたかった。
- トイレが「キー」となってこわい。

- 言うことを聞かない人がいる。

しおりに記載の感想より（原文のまま）

- ・ 今日、わたしは、海でおよぎました。さいごにはターザンをしました。さいしょは、とってもしょっぱかったり、くびの中に水が入ってくるしで、「もうやりたくない。」と思ったけど、もう一どチャレンジしてみたら、「ちょっと、なれたかな・・・。」と思って、もう一どチャレンジしたら、もう、かんぺきに楽しくなりました。
- ・ 海でたくさんあそんでたのしかったです。とびこみがこわったけど、できました。かいがらも見つけられました。たくさんおよぎました。
- ・ うみにとびこんだことがたのしかったです。ろおぶでとびこんだことがたのしかったです。およいだことがたのしかったです。

4. 成果と課題

4. 成果と課題

(1) 成果

- 海活動ではほとんどの子どもたちが桟橋からターザンロープでジャンプに挑戦した。深いところも怖がる子はなく、潜堤での観察活動も楽しむことができた。意欲的でたくさんの生き物を発見していた。
- 野外炊事やテント設営は春の経験もあり、とても手際よく進める様子が見られた。役割分担を決め、自分の役割をしっかり果たそうとする様子が見られた。
- 全体的にボランティア任せ、友だち任せという子どもたちではなく、楽しい活動だけでなく準備や後片付け、掃除なども意欲的に行つた。
- 外へキャンプにでかけるということで、団体装備の準備や運搬、無人浜までのコースの点検や整備など、自然の家スタッフのあらゆる場面でのサポートのおかげで無事活動を行うことができた。

(2) 課題（特に運営面で）

- お互いに慣れてきているところもあり、1回目ほどの緊張感はなくなっている。安全に対する注意など、特に、大事な話を行うときはしっかりと聞かせることが大切になる。
- 野外炊事の後の後片付けが中途半端に終わってしまった。キャンプへの出発を後らせたことで、太陽が沈む前に片づけを終えることができなかつたところもあるが、子どもたちにこれだけはさせきるということは明確にしておきたかった。
- スノーケリングの準備に手間取り、暑い中子どもたちを待たせることになった。低学年に応じた準備、説明の段取りなどもう少し配慮が必要であった。
- 忘れ物が多かった。持ち物への記名をお願いはしているが、自分の持ち物への意識を高める工夫も必要。

5. 活動の様子 写真（数枚）

【海活動】



【無人浜でのキャンプ】



【その他の場面】

